

令和5年度 第2回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会 議事録

1 日 時 令和5年7月14日（金曜日） 午後1時55分から午後4時12分まで

2 場 所 長野市民病院 会議室4・5・6

3 出席者

（出席委員）

伊藤 隆三 委員
奥山 隆平 委員
川合 博 委員
篠原 加代子 委員
田中 幹夫 委員
松本 清美 委員

（委員以外の出席者）

池田 宇一 （地方独立行政法人長野市民病院理事長）
西村 秀紀 （ 同 副理事長）
吉池 文明 （ 同 理事）
草野 義和 （ 同 理事）
望月 勇次 （ 同 理事）
関 あかり （ 同 副看護部長）
内川 利康 （ 同 事務部副部長兼財務課長）
北原 啓祐 （ 同 人事課長）
木下 美恵子 （ 同 医事課長）
蓮見 亮 （ 同 企画課長）
宮澤 毅 （ 同 財務課係長）
丸田 崇紘 （ 同 企画課係長）

（事務局）

臼井 一 （長野市保健福祉部長）
小林 雅裕 （長野市保健福祉部参事兼医療連携推進課長）
立山 晴樹 （ 同 医療連携推進課係長）

4 議 事

（報告事項）

（1）令和4年度の財務諸表等について

- ・損益計算書 前年度比較
- ・令和4年度決算の概要
- ・財務諸表等

【資料1－1】

【資料1－2】

- ・事業報告書 【資料 1－3】
- ・監査報告書 【資料 1－4】

(2) 令和 5 年度 年度計画について

- ・地方独立行政法人長野市民病院 2023 年度（令和 5 年度）年度計画 【資料 2－1】
- ・第 3 期中期計画・2023 年度（令和 5 年度）年度計画 対照表 【資料 2－2】

(協議事項)

(3) 業務実績評価の進め方について

- ・業務実績評価について 【資料 3－1】
- ・長野市民病院の業務の実績に関する評価実施要領（抜粋） 【資料 3－2】

(4) 令和 4 年度の業務実績に関する評価について

- ・令和 4 年度業務実績報告書 【資料 4－1】
- ・令和 4 年度業務実績自己評価一覧 【資料 4－2】

○ 開 会 午後 1 時 55 分

(事務局)

定刻前ではございますが、お集まりですので、ただいまから始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日は、全委員がご出席されており、地方独立行政法人長野市民病院評価委員会条例第 7 条第 2 項の規定で定めます定足数を満たしておりますので、ただいまから令和 5 年度第 2 回地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を開催させていただきます。

私は、本日会議の進行を務めさせていただきます、保健福祉部医療連携推進課の立山でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、午後 4 時頃の終了を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。また、本日の委員会につきましては、公開で行い、議事録調製のため録音させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

はじめに、委員の交代についてご報告申し上げます。松本あつ子委員から退任の申し出があり、令和 5 年 6 月 18 日付けで新たに公益社団法人長野県看護協会会長の松本清美委員にご就任をいただきました。なお、委嘱書につきましては、お手元にお配りをさせていただきましたので、よろしくお願いいたします。

それではここで、今回初めてご出席された委員から自己紹介をいただきたいと存じます。おそれ入りますが、伊藤委員、松本委員の順番で自己紹介をお願いいたします。それでは伊藤委員からお願いいたします。

(伊藤委員)

伊藤でございます。長野商工会議所から派遣されてまいりました。前回の委員会は、欠席をしてしまい、大変失礼いたしました。会議資料を読ませていただきましたが、なかなか世界が違うなという思いで読ませていただきました。

いろいろなかたちで皆様方にご指導いただきながら、精一杯努めてまいりたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

(松本委員)

長野県看護協会の松本清美と申します。よろしくお願いいたします。

6月17日に総会がございまして、松本あつ子前会長は6年間会長をなさって任期満了で、私が会長ということになりましたので、委員も交代になりまして、前回は大会などがありまして欠席いたしましたが、今後ともよろしくお願いいたします。

私は、看護職ですが、保健師をずっとやってきまして、3月までは須坂看護専門学校で校長を務めておりました。うちの学校からも市民病院に就職をさせていただきお世話になっております。また、コロナの感染拡大時に、上田保健福祉事務所にありまして、患者が多く出たときに市民病院に受け入れていただき本当に感謝をしたところでした。病院の方はいろんな意味でご苦労されていると思いますが、資料を見させていただきまして、本当に様々な点を工夫しながら、コロナ禍ではありましたが、本当に病院経営を一丸となってやっていると改めて見させていただきました。

今回から委員として参加させていただきますが、今後ともよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは次第に沿って進めてまいります。

はじめに、奥山委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。奥山委員長、よろしくお願いします。

(奥山委員長)

お忙しい中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。本日のミッションは、長野市民病院の業務実績の評価となりますので、委員の先生方の忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。今日もよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。次に、前回の第1回評価委員会の議事録について、ご承認をお願いしたいと思います。事前にお送りしました議事録について、何か修正事項等ありましたら、ご発言をお願いいたします。

(委員からの意見なし)

それでは、第1回評価委員会議事録につきましては、決定とさせていただき、長野市ホームページにおいて公開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、本日ご審議いただく令和4年度の業務実績評価につきましては、評価委員会条例第2条第1項第2号の規定により、評価委員会は市長の諮問に応じて意見を述べることとなっております。つきましては、本件を評価委員会へ諮問させていただきますので、保健福祉部長から委員長へ諮問書を伝達いたします。

(臼井保健福祉部長)

地方独立行政法人長野市民病院の令和4年度業績実績評価について諮問させていただきます。
よろしくお願いいたします。

(諮問書を奥山委員長に伝達)

(奥山委員長)

謹んでお受けいたします。

(事務局)

ありがとうございました。席へお戻りください。

それでは次第の4、会議事項に入らせていただきます。評価委員会条例第7条第1項の規定によりまして、委員長が議長となりますので、ここからは奥山委員長に議事の進行をお願いいたします。

(奥山委員長)

それでは、委員の先生方よろしくお願いいたします。今日の会議は、報告事項が二つございます。その報告事項の二つを踏まえまして、協議事項は、主に長野市民病院の業務実績の評価を実施していただくというのがメインテーマになっております。それでは報告事項(1)の「令和4年度の財務諸表等について」、長野市民病院からご説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(長野市民病院)

資料1-1～1-4について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。それでは委員の先生方、資料の1-1から1-4に関しまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

(松本委員)

7年連続の黒字は、素晴らしいと思います。7年連続ということで、努力されていることとか、特長があれば教えていただきたいと思います。

(長野市民病院)

病院長の池田です。経営の専門家の伊藤副会頭の前で恥ずかしいですが、経営のためには、「入りを量りて出づるを制す」という、きちんと収益を得て、出費を抑えるという基本でやってきました。いろんな取組を職員の皆さんがやってくれました。

まず、出費の方は、例えばいろんなものを買うときに、確実に相見積りをとったり、他病院のベンチマーク、安く購入している情報を得たりしてきました。財務課が頑張ってやってくれました。

収益の方は、独法化して、前半3年間は、患者数を増やそうということで取り組んできて、右肩上がりですと増えてきて、収益も増えました。4年目はコロナで入院患者は1割ぐらい減りましたが、各種の加算をとるようにして、診療報酬のDPCの係数を上げることによって、何とか入院患者数の落ち込みをカバーできるような対策をしてきました。一言では言えませんが、いろんなところで皆さん細々やってくれたなと思っています。

(奥山委員長)

他の委員の先生方、いかがでしょうか。

(篠原委員)

3ページに、診療支援ということが書かれておりますが、これだけの病院を経営しながらドクターもお忙しい中、近隣の医師不足病院や長野市国保鬼無里診療所へ医師を派遣していらっしゃるということですが、具体的にどのような活動をされているのかお話できる範囲で結構ですのでお願いいたします。

(長野市民病院)

吉池と申します。診療支援についてですが、鬼無里診療所で常勤されていた先生が、いろんな理由で退職されてしまいました。非常に田舎なところでありまして、住民の方々が医療サービスを受けるためには長野市の方まで1時間かけて来ないといけない。しかも高齢の方が多いんですね。それを支えるには、皆で協力し合って同じ市内にありますので、我々が医師を派遣して、具体的には月曜日と金曜日、隔週の土曜日ですけれども、各科から協力しあって医師を出して、外来診療のお手伝いをしています。

他にも近隣の医療機関で、例えば脳神経外科のない医療施設には当院の診療科の医師が行って、専門的な診療をお手伝いさせていただいております。

(篠原委員)

ありがとうございます。

(奥山委員長)

財務諸表等に関していかがでしょうか。特にございませんでしょうか。

(田中委員)

何点かお伺いしたいところがございますが、初めて貸借対照表を見させていただきまして、1ページの長期性預金、投資有価証券、現金及び預金を合計しますと、かなりの金額になっています。内部留保をして蓄積して次の投資であったり、あるいは退職金の資金であったりとか、いろんな目的があるかと思いますが、その水準の目安みたいなものをお持ちなのか、この金額が適正かどうかという基準があれば教えていただきたいというのが1点目です。

それから、医療機関の消費税の問題というのは、古くて新しい問題ではありますが、今回参考資料でいただいている中に、資産に係る控除対象外消費税等ということで、8,400万円、これは設備投資が非常に多かったということで、営業外のところが増えていまして、医業費用の経費のところでも、消費税

が4,760万円増加しています。これはかなり大きな損税が発生しているんだろうと思います。実際、損税は全部でどれぐらい発生しているのか教えていただけるとありがたいです。

(長野市民病院)

最初に消費税について回答いたします。財務諸表の21ページの医業費用の中の、経費の中に、下から3番目に租税公課がありまして、6億3,400万円となっておりますが、これのほとんどが消費税になります。

1点目のご質問の長期性預金や有価証券をいくらぐらいにするかという基準については、特に明文化した基準があるというわけではないですが、現金預金には運営資金と定期預金が含まれており、定期預金を運用しながら、優位な長期性預金、財投機関債、国債などの紹介があったときに、見積もりをとって機関債を購入したり、あとは定期預金を長期性預金に切り換えたりというようなことをやっております。

(田中委員)

質問の趣旨は、どういうふうに運用しているかではなくて、78億と19億を足しますと約100億弱の預金を持っているわけなんですけども、その金額が多いのか少ないのか、これまでの事業の中で蓄えてきたものだと思うんですけども、これを次の設備投資などに使っていくために残されているんだと思いますが、将来の建替えとかも含めて、どれぐらいの水準まで残高を増やしていけるのか何か基準をお持ちなのかということです。

(長野市民病院)

財務課長の内川でございます。当院設立後20年を超えまして、先ほどお話のありました新棟増築とか、今後は旧来の基準で作った建物をどんなふうに応用していくかということにおいて、定期的に工事が必要になると思いますし、医療機器等についても膨大な金額で更新しなければならない現実が待っております。したがって、年々積み上げていく減価償却のバックボーンとしての蓄えは常に必要で、最低限、市から独法として引き継いだ最低30億円ぐらいは、守らなければならないと思っております。また、退職金の引当金は、別枠で確保しておかなければなりませんので、いくら目標という基準はありませんが、今後、今現在以上のものは維持している状態を作っていかなければいけないと思っております。

(田中委員)

ありがとうございます。

(伊藤委員)

現金預金78億に対して、未収入金が26億ですね。決して小さくないと思いますが、毎年大体このぐらいなのでしょう。

(長野市民病院)

決算で日にちを切っている状態なので、金額は大きくなっていますが、純粋な未収入金は、およそ

4,000 万ぐらいです。ほとんどは診療報酬についての未収金で、タイムラグがあって入金されるものになります。

(伊藤委員)

未収金が大体 4,000 万ぐらいだとすると、貸倒引当金の 700 万は多すぎるのではないですか。

(長野市民病院)

債権管理上、医療費の未収金については、時効の到来があっても請求を続けるというスタンスでやってきました。そんな中であって、債務者自身が亡くなったりとか、連絡が取れなくなったりして、債権についての見直しを行わなければならないという状況になりましたので、その分について整理したものです。

(伊藤委員)

田中先生が専門だと思いますが、取れない恐れがあるものについては、引き当てが当然求められます。そういったものを除くと 4,000 万ぐらいが大体通常に残ということになりますと、私は高いと思います。

(田中委員)

この医業未収金は、診療報酬で基金から入ってくるものが、大体 2 か月分で、その他に患者さんの窓口負担分が 4,000 万ぐらいということでしょうか。

(長野市民病院)

そのとおりです。

(田中委員)

その割合からすると、この 670 万というのがそんなに回収できないものがあるのかというのが、伊藤委員さんの疑問で、私も今聞いてそう感じたのと、この上のところに破産更生債権等というのが 2,600 万あるんですけど、これはもう全額引当されているので、合計で 3,200 万ほど回収が非常に厳しいものがあるという認識ということなんですか。

(長野市民病院)

そのとおりです。20 年来の未収金についてずっと積み上げて管理してまいりましたので、金額的にはそのくらいになってしまうということです。恐らくは同等の病院でも同額ぐらいになるのではないかと考えています。

(伊藤委員)

もう一ついいですか。この医業未収金の貸倒引当金は、長野市民病院さんが長く経験してきた中で、大体このぐらいは、引当を立てなければ難しいだろうなという判断で立てられているのか、それとも監

査法人などどこか外部の機関からアドバイスをもらってこの割合にしているのかということも教えてもらいたいです。

（長野市民病院）

計算方法としましては、例えば3年以上回収ができていないものなど、基準に当てはめて計算して積み上げた結果、この2,600万円という金額になります。外部の機関からのアドバイスではなく、決まった基準の中で計算をして金額を出しております。

（伊藤委員）

それは、破産更生債権の2,600万ですね。

そうではなくて、医業未収金26億に対しての貸倒引当金が670万なら決して多くないですよ。普通は全然疑問にも思いませんが、先ほどお聞きすれば、決算日の関係上、未収金26億が立っているけれども、通常の未収金は4,000万ということでしたので、4,000万だとすれば、670万はちょっと多いのではないかとお聞きしました。

それは、4,000万あっても大体700万弱ぐらいは回収できないということ、今までの長野市民病院さんの経験値として出しているのか。それとも、外部監査をいくつか受けられていますが、そういう機関からのアドバイスで決めているのかということです。

（奥山委員長）

毎年700万ぐらいは払わない人がいるのではないかとという経験値を踏まえてお決めになっているのではないかと思います。いかがでしょうか。

（長野市民病院）

破産更生債権と同じように、貸倒引当金についても計算式に基づいて金額を出しています。計算式は過去の実績に基づいているので、どちらかというと経験値の方が近いと思います。

（川合委員）

感想ですが、とても素晴らしい決算を見せられました。県内に限らず、日本全国、このコロナ禍で大変苦戦している病院が多い中で、病床確保料を引いても、黒字を出して素晴らしい成績を出したということは、これはもう称賛に値すると思います。特に、全身麻酔手術件数が、若干増えていることは、特筆すべきことだと思います。多くの病院が、スタッフがコロナに罹ってしまってオペ室の運営ができないとか、いろんな状況で手術室を閉鎖したとか、大変ご苦労されている中で、市民病院の皆さんが感染対策も行いながら、これだけの実績を示されたということは、大変素晴らしいと思います。

（奥山委員長）

ありがとうございます。それでは、報告事項の2に移らせていただきたいと思います。

報告事項の2、令和5年度年度計画に関しまして、市民病院の方からご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

資料 2－1～2－2 について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。委員の先生方からご質問やご意見がありましたらいかがでしょうか。

(川合委員)

単純な疑問ですが、もう既に 2022 年度の実績が出ていますが、比較の対象として 2021 年度実績を出しているのは何か特別な理由があるのでしょうか。

(長野市民病院)

2023 年度の年度計画は、今年の 4 月 1 日に既に公開してしまして、その時点では 2022 年度の実績はまだ出ておりませんので、2021 年度の実績で表記しております。

(伊藤委員)

非常に意欲的な目標でいいなと思って読ませていただきました。16 ページの施設設備等の維持管理の部分で、延べ床面積当たり CO₂ 排出量の年率 1 %削減に取り組むとあります。具体的な計測の仕方は、どのように考えられているのでしょうか。

(長野市民病院)

申し訳ありません。施設管理課の者が不在のためお答えできませんので、後日回答とさせていただいてよろしいでしょうか。

(伊藤委員)

結構です。

(奥山委員長)

委員の先生方よろしいでしょうか。

それでは、報告事項の 2 を終了とさせていただきまして、協議事項の方に移らせていただきたいと思います。協議事項の方は、最初に、業務実績評価に関しての進め方について、事務局からご説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

資料 3－1～3－2 について説明

(奥山委員長)

今日のミッションとしまして、業務実績の評価をこの委員会ですべていただくということになっております。中項目のところに点数をつけるわけですが、既に長野市民病院の方で自己評価をしてくださっ

ているのでその説明を聞いて、委員会の方でそれでいいのか異なるのかということをご討議いただくとともに、ご意見を頂戴するという運びになっております。

中項目は10個ございますので、1個1個、やらせていただくという理解でよろしいですか。また、報告事項の1でもご意見が出ましたので、このあと中項目の中で反映させていただくという理解でよろしいですか。

(事務局)

はい。

(奥山委員長)

今のご説明に関しまして、先生方からご質問等はよろしいでしょうか。

とりあえず、まずやってみながらということにさせていただければと思います。それでは、本題の令和4年度の業務実績に関する評価について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

資料4-1の2022年度業務実績報告書というA4横長の厚めの資料をご覧いただきたいと思えます。こちらが6月30日付けで市長宛てに提出されました業務実績報告書でございます。それと、その後ろに資料4-2がございまして、A3横長、カラーの資料ですが、法人の自己評価を一覧にしたものでございます。先ほどご説明しました評価実施要領に基づいて、この報告書に沿いまして、委員長おっしゃるように、中項目ごとの評価をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

(奥山委員長)

審議の進め方ですが、まず市民病院の方から中項目ごとにご説明をいただきます。その後、委員の先生から、中項目ごとにご質問とご意見をいただき、評価委員会として、評価点を提示するようにしたいと思います。委員の先生方よろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

それでは、資料4-1の6ページの大項目の第1のうち、中項目の1、「市民病院が担うべき医療」について、市民病院からご説明をいただいて、そのあと討議をさせていただきたいと思えます。ではご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第1 中項目1「市民病院が担うべき医療」について説明

(奥山委員長)

最初の中項目、「市民病院が担うべき医療」に関して、委員の先生方、ご質問ご意見いかがでしょうか。

(川合委員)

7ページの「イ」の「救急搬送患者の円滑な受入れ」のところの一番右の実績と課題、ドクターヘリの搬送受入が年間19件ということですが、最後の方に中山間地域からのドクターヘリによる搬送についても受入に努めると書いてあるんですが、現状として中山間地域からは受入れが難しいような事情があるのかどうかお聞きしたいと思います。

(長野市民病院)

中山間地域からの受入れが難しいということではなく、受入れが多いというイメージです。

(川合委員)

受入れが多いわけですね。

(長野市民病院)

山の中に山菜採りに行って動けなくなったり、スキー客が動けなくなつてドクターヘリで搬送されたり、中山間地域からの受入れは多いと思います。

(川合委員)

受入れが多いので、さらに充実させていくということですね。

(長野市民病院)

そのとおりです。

(伊藤委員)

川合先生がおっしゃったように、「中山間地域等からのドクターヘリによる搬送についても、受入れに努める」となると、何かやっていないような文章に受け取れます。今の先生のお話だと逆ですので、この文言は考えてもいいのではないのでしょうか。

(長野市民病院)

ありがとうございます。こちらの文言を分かりやすいように修正したいと思います。

(伊藤委員)

中項目評価を読ませていただきましたが、非常に専門性を高めて、維持する努力をされている一方で、地域の中核機関として、地域包括ケアシステムの構築の支援を行うなど、非常に市民に寄り添うような努力をされていると思います。全体として4の評価は非常に真つ当だなと読ませてもらいました。

(田中委員)

特にご意見を申し上げることもなく、計画どおり実施されているということで、私も4の評価で妥当

だと考えております。

(伊藤委員)

この業務実績報告書の中に、救急車を断らないという文言がどこかにあったかと思います。救急車を断らないというのは、地域の皆さんにとってどのくらい心強いかわかりません。是非これからも頑張っていたきたいと思います。

(松本委員)

私も4で妥当と思っておりますし、伊藤委員さんと同じように、救急を断らないというのは、なかなか難しいということを経験しておりますので、長野圏域の中での救急の安心が守られているということを改めて思いました。

1点教えてください。6ページの救急患者の受入件数ですが、「救急受診者数が徐々に戻り」というのは、1回減ったということでしょうか。

(長野市民病院)

コロナ禍で救急受診者数が減りましたが、徐々に回復してきているということです。

(松本委員)

コロナ前はどのくらいだったんですか。

(長野市民病院)

73ページの一番上の救急患者受入件数をご覧いただくと、2019年度実績がコロナ前の数値ということになります。

(松本委員)

コロナ前は、2万件近くあったということですよ。またこのぐらいの受入れをしていくということは大変かなと思いますし、その中でもウォークイン患者がかなり多いということが医療機関の中で課題になっていますし、本当に救急にかかる必要があるのかどうか、救急の利用の仕方についても啓発していく必要があるのかなというふうに思います。ありがとうございました。

(篠原委員)

18ページの全身麻酔手術件数ですが、大変な数を先生方やっただいていただいているんだなということを、この表を拝見して感じました。ドクター、看護師、スタッフが十分足りているのか、働き方改革も考えなければならない世の中なのに、こんなに先生方がやっただいていただいているんだなということを感じました。この評価については、私も本当に納得しているところです。ありがとうございます。

(奥山委員長)

では、評価委員会といたしましては、中項目1の評価に関しましては、長野市民病院の自己評価と同

じく4ということでよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

お出しいただいたご意見については、特記事項として事務局の方でおまとめいただければと思います。続きまして、中項目の2、「患者サービスの向上」に行きたいと思います。市民病院からご説明をお願いします。

(長野市民病院)

大項目第1 中項目2「患者サービスの向上」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。委員の先生方の方から、「患者サービスの向上」に関しましてご意見ご質問いかがでしょうか。

(松本委員)

評価4については、妥当と思いながら読ませていただいております。院内Wi-Fiの整備は、すごく大事と思っていて、保健所におりました時に患者さんにいろんな病院に入院していただいた中で、病院によってそのあたりの整備にすごく差があって、行政が入院させるのになぜ使えないのかとか、いろんな苦情が行政にも寄せられまして、そういう意味ではこれからの時代の中はITを活用して、患者さんの病院生活を快適にするのが大事かと思っておりました。コロナ禍でなかなかお見舞いができなかったり、ご家族との面会ができなかったりということがあったかと思いますが、そのあたり院内Wi-Fiを整備して何か変わったのかとか、工夫された点があれば教えていただければと思います。

(長野市民病院)

副看護部長の関です。面会等については、Wi-Fiが入る前には、iPadを用いてオンライン面会をしておりました。Wi-Fiが入った後も引き続きオンライン面会の希望がある場合は、対応をしていますけれども、やっぱり高齢の方が多いので、Wi-Fiは若い方にはメリットがありますが、入院患者さんからの声としてはあまり聞かれていません。

(伊藤委員)

全体として、患者、患者の家族の皆さんに寄り添う努力をされているのは、十分感じられました。

その中で、外来患者総合満足度が目標には達しませんでした、78.6%と高いですね。その一方で、30ページが一番最後のところですが、外来待ち時間に対する患者満足度が37.6%となっています。平均待ち時間20分21秒が長いのか短いのか分かりませんが、総合満足度と比べてこんなに差が出るものなのでしょうか。教えていただければと思います。

(長野市民病院)

医事課長の木下です。外来の待ち時間というのは、診察の待ち時間です。診察の予約があっても、なかなか時間どおりにはいかない中で、私としては、20分は妥当かなと思っておりませんが、患者さんにしてみれば、20分は長くお感じになってこのような結果になったと思っております。

(伊藤委員)

ありがとうございます。

(川合委員)

呼出しの番号表示システムを導入されていますが、順番が来たら携帯に連絡するような機能があると思います。例えば、小児科や産科の患者さんは、私の経験ですと、かなりその機能を使うんですね。そうしたデバイスを使って、待ち時間の満足度を高めるというようなことをされたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

(長野市民病院)

一般のお年寄りとはなかなか難しいと思いますが、小児科などの患者さんは、そういうデバイスが使えるということで、検討させていただきます。

(川合委員)

スマホに登録をしておくと、例えば外で買い物をしていても、順番があと5番目ぐらいになったら呼出しが鳴って、病院に戻ってくることができるものもあります。

(長野市民病院)

当院の場合は、田んぼの中にありますので、外に買い物に出るという方は少ないと思いますが、今回、院内にドトールコーヒーを作りまして、店内には呼出しの番号を表示させていますので、時間までコーヒーを楽しんでもらえるように工夫しております。先生が言われた呼出しシステムはできるかどうか検討いたします。

(田中委員)

患者サービスの向上という面では、非常に努力されていると感じております。マーケット調査で、満足されていない方について、私は全部満たさなくてはいけないのかという目線も持っています。全部が満たされれば、市民の方にとっていいのは間違いないんですけども、設備投資とか、マンパワーが必要になりますし、対応すべきものをチョイスしていただくのが一番いいのかなと感じるところと、患者満足度の裏返しで、最近だとカスタマーハラスメントという問題が話題になることが多くなっていると聞いています。精神疾患の労災認定の基準にも加わるということが検討されていると聞いていますので、患者さんの対応について、現場の人に任せるのではなくて、事務方さんも含めて適切に対応していただくのがよろしいのではないかと考えております。

この評価4については、このとおりでよろしいかと思います。

(篠原委員)

市民病院では、はづきの会の方が長年にわたってボランティア活動をしていただいています。コロナ禍で、実際にどんなことをされているのか、教えていただけますでしょうか。以前は、受付のご案内とか、周囲の草花の手入れとかいろいろされていたみたいですが、今の実態はどうでしょうか。

(長野市民病院)

院内のご案内等は、コロナ禍になった3年ほど前からはお断りするような状況になっていますが、院外のお花の植替え等は、引き続きお願いをしています。今後またどんな展開ができるか、相談していきたいと思っています。

(奥山委員長)

それでは委員の先生方、高いご評価をいただいたということで、これも自己評価4というのを踏まえまして、評価委員会としても評価は4ということでよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

それでは、続きまして中項目の3、「医療に関する調査及び研究」に移りたいと思います。市民病院からご説明をお願いします。

(長野市民病院)

大項目1 中項目3「医療に関する調査及び研究」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。委員の先生方、ご意見ご質問いかがでしょうか。

(田中委員)

院内学術発表会は非常に素晴らしいと思います。また、医学雑誌の第7巻を出されていて、普段実務で業務をされている以外に、皆さん研鑽されていることが、こうした取組からうかがえると思いますので、これからもこういった活動をやっていただくといいのかなと思います。

(松本委員)

院内での研究に取り組まれていますし、私も評価4で妥当かと思います。

看護協会でも看護研究学会を10月7日に実施する予定になっておりまして、病院の取組を他の病院に伝える場であったり、研鑽の場にもなりますので、是非発表をいただきたいと思います。コロナ禍が明けて、オンラインと両方でやるわけなんです、コロナ禍で参加者が減ってきています。発表も大事だし、聞くということもすごく大事なので、協会でもまた力を入れていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(奥山委員長)

他にご発言はないでしょうか。

それでは自己評価4ということになっておりますが、評価委員会としても4でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

それでは、続きまして、中項目4、「医療提供体制の充実」に関してご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目1 中項目4「医療提供体制の充実」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。委員の先生方の方から質問やご意見がありましたらお受けします。

(川合委員)

質問ですが、39ページに書かれています、コンピューターロボット、RPAを用いた定型作業の自動化ですが、具体的にこれはどんなものなのでしょうか。

(長野市民病院)

医事課長の木下です。診療報酬の請求業務について、電子カルテの特定の文言から、例えば何々という処置を自動的に拾えないかという研究をしております、実際にできるように進めているところです。

(川合委員)

医事システムとして、そういうAIを活用したシステムを始めたということですね。コンピューターロボットということで、例えばパナソニックが開発している薬品を病棟まで運ぶようなものを導入されたのかなと思いましたが、わかりました。

(伊藤委員)

紹介件数、逆紹介件数が非常に多いと思いますが、このことは、地域の医療機関と頻繁にやり取りがあるんだなと感じますが、そういう理解でよろしいでしょうか。また、目標数値は、何をベースにして設けられるのでしょうか。前年度の実績をベースにして設けられるのでしょうか。

(長野市民病院)

当院は、地域医療支援病院として承認されておまして、承認基準に紹介率何%以上とか、逆紹介率何%という数値が決められておまして、これがまずは目標になっています。

(松本委員)

小項目の（９）の医療安全対策のところを教えてください。まず、インシデント、アクシデントの関係ですが、73 ページを見させていただくと、大分減ってきていて、2021 年がすごく減って、2022 年が 1,972 件と少し前年より増えてしまっています。評価については、読んでいて妥当だと思っておりますが、どのようなものが増えたのかとか、前年に比べて増えた要因とか、医療従事者の疲弊なんかもよく言われているところではありますので、何か分析されているようであれば教えてください。

（長野市民病院）

ありがとうございます。大きなアクシデントが発生しないように、小さなインシデントの時から芽を摘んでいきたいということで、できるだけちょっとしたことでも報告するようにしています。そのため、報告件数が多くなっているということだと思います。

（篠原委員）

42 ページの医師、看護師の人材の確保ですけど、実績と課題のところに、各診療科において柔軟かつ効果的に医学部 6 年生 19 名の見学を受け入れて、次年度に向けて初期研修医試験では応募 19 名のうち 8 名を採用内定としたということなんですが、先ほどから伺っていると、医療の現場が大変な中、若い医師や看護師を育てるということで、教育研修の現場の状況はどうなっているのか少しお話いただければありがたいです。

（長野市民病院）

副看護部長の関です。人材確保等については、コロナ禍で、看護学生の実習が全然できていないということを知っていますので、そこを受入れ側の職員に周知するとともに、特に就職して 1 か月間は徹底的に、そういうところも含めて研修を充実させるようにして、早期退職につながらないような工夫をしております。

（篠原委員）

ありがとうございます。今、実習ができない現状があると伺いましたが、せっかく取得した資格を十分現場で生かせるように、若い情熱に燃えた職員が折れないように、現場での教育や講習などを充実させていただくとありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

（長野市民病院）

医師の確保に関しては、当院は、信州大学にかなりお願いしているところがあります。病院長の一番大きな仕事と認識しておりまして、きちんと確保していきたいと思っています。

（篠原委員）

充実した医療は、優秀なスタッフを揃えるということが一番かもしれないので、また今後も関係する皆様と連携をとりながら市民病院のためによりしくお願いしたいと思います。

(川合委員)

42 ページのイのところに、看護師特定行為研修に 1 名を派遣と書いてあるんですが、長野市民病院としては特定看護師が今のくらいの人数がいて、その活躍の場といいますか、どのような活用をされているのか教えていただきたいと思います。

(長野市民病院)

副看護部長の関です。当院で特定行為研修を修了した者は 2 名おりまして、新たに 2 名受講中がございます。まだ人数が少ないので、これから委員会等を立ち上げて、病院の中でどういう活動をしていくか検討している最中でございます。

(川合委員)

どういう分野でしょうか。

(長野市民病院)

認定看護師を持っている者が、その分野に関しての特定行為をとっており、WOC（皮膚・排泄ケア）と腎不全看護の 2 名です。

(奥山委員長)

それでは、よろしければ、中項目 4 の「医療提供体制の充実」について、自己評価は 4 ですが、評価委員会としても評価は 4 でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

ありがとうございます。続きまして、大項目の第 2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置ということで、中項目 1 の「経営管理機能の充実」に関して説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第 2、中項目 1 「経営管理機能の充実」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。経営管理機能の充実に関して、委員の先生方、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

(田中委員)

監査法人と任意で契約をしているということですが、監査の範囲というか、どの程度の監査を受けられているのかお伺いできればと思います。

(長野市民病院)

監査法人との監査契約の範囲は、会計・財務諸表が適切に作成されるかどうかというところを、メインに契約しています。期中の仕訳が正しく処理されているかというところを含めて、1年分の取引、仕訳を見ていただいた上で、最後に作成する財務諸表について、すべて確認をしていただいています。事業報告書の中にも決算に関する記載がありますので、その中の数字が正しいかどうかチェックしていただいております。また、会計処理に悩むようなケースは、随時連絡を取って確認したり、教えていただいております。

(田中委員)

ありがとうございます。そうしますと、内部統制が適切に機能しているとか、そういった部分のチェックというのは、特段、監査法人の方ではされていないということでしょうか。

(長野市民病院)

内部統制につきましては、すべての取引の中で必ず決裁をとっているかなども含めて監査法人に見ていただいております。あとは各部署と監査法人の面談をする中でも、内部統制面の確認をしてもらっています。

(田中委員)

ありがとうございます。

(伊藤委員)

田中先生のご質問に関連しますが、監査法人の監査を受けた方がいいとお感じになったのは何かあったんですか。それとも、財務諸表をよりしっかりしていこうということでしょうか。

(長野市民病院)

後者でありまして、何か事故などがあって監査契約をしたということではなくて、自主的に正しいものを作成するために契約をしているというものです。独法化以前からずっと契約をしております。

(伊藤委員)

すごいですね。立派だと思います。

(奥山委員長)

それでは、自己評価4ですが、委員会の評価も4でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

続きまして、中項目の2、「働きやすくやりがいのある職場環境の整備」に関して、ご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第2 中項目2「働きやすくやりがいのある職場環境の整備」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。この中項目に関して、委員の先生方からご質問、ご意見をお受けしたいと思います。

(篠原委員)

やはりお子さんを持つ職員の方が働きやすいというのは、本当に望ましいことであって、せっかくの能力を埋もれさせないためにも、いろいろご尽力いただいていることと思いますが、それに関連して、55ページに、保育の委託業者と連携して託児業務を推進したとありますが、保育の委託業者との連携というのは、どのようなことをされているのかお話いただければありがたいと思います。

(長野市民病院)

従来から託児所については、自前で運用しておりましたが、外部の委託業者と契約をしまして、柔軟に対応できる受入体制を構築できたと思っています。

(篠原委員)

子どもを持つ労働者にとっては、やっぱり安心して仕事に就くには、子どもを守る環境が充実していると大変ありがたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

(松本委員)

自己評価については、4で妥当かと思っています。

同じく55ページの看護師の離職率についてですが、全国の中でも長野県は比較的離職率は低いところですが、前年に比べて1%減っているということは、やはり働きやすい環境づくりに力を入れているという部分かなと思って聞かせていただいております。その中で、全国的に新人の離職率が上がってきているというのが、コロナ禍でありまして、先ほどお聞きしたように、実習もなかなかできないで現場に入っていてリアリティショック等もあるかなと思うんですが、そのあたりの現状がどうかということと、メンタルヘルスに不調を来す看護師、医療従事者が増えている状況があって、心の健康相談室などを作って対応していただいているありがたいなと思いますが、実態や対策などをお聞かせいただければと思います。

(長野市民病院)

副看護部長の関です。新人の離職に関しては、やはりコロナ禍で数年前は少し高かったんですが、コロナ禍が落ち着いてきた頃から少しずつ減ってきているような現状です。先ほども申しましたが、実習をしていない方が入ってきていますので、受入側の体制を強化しているのが功を奏しているかなと思っています。メンタルヘルスに関しても、コロナ禍ではかなり療養休暇を取る方が多かったん

ですけれども、少しずつ減ってきています。当院の心の相談室は、自分でメールで予約できますので、その辺がうまく行っているのかなと思っています。

(奥山委員長)

それでは、自己評価は4ですが、委員会の評価も4でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

続きまして、大項目の第3、中項目の1、「効率的な経営の推進」に関して、ご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第3 中項目1「効率的な経営の推進」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。この中項目に関して、委員の先生方からご質問、ご意見をお受けしたいと思います。

(川合委員)

この評価に関しては、自己評価4で、ちょっと謙遜しているのかなと思うぐらいです。

56 ページの下表ですが、平均在院日数が、急性期病棟で前年比0.7日プラスということなんですが、これは主な原因はどういうところにあるのでしょうか。

(長野市民病院)

一番の原因は、転院ができなくなったということです。急性期病院ですから、回復に応じて、次の施設や後方病院に転院するわけですが、コロナ禍で転院ができなくなってしまいまして、院内で満床になってしまいました。それが一番の原因だと思っています。

(川合委員)

わかりました。

(伊藤委員)

収益の確保をしっかりとされて、コストダウンもされている。例えば、医薬品の一括購入のように、まとめてとにかく安くさせるというような努力をされています。しっかりと収益を確保して、削る経費を削っていくということを病院全体で努力をされているんじゃないかと思います。本当にすごいなと思って読ましてもらいました。

(奥山委員長)

先ほど川合先生から、自己評価4ということは、多少謙遜もあるのではとのコメントもありましたが、委員会としては評価は4でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

ありがとうございます。それでは、次の中項目2「経営基盤の確立」のご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第3 中項目2「経営基盤の確立」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。5点ということは計画を上回り、顕著な成果があるという自己評価であります。委員の先生方いかがでしょうか。

(田中委員)

十分に利益が出ているということで、5点でいいと思います。

1点教えていただきたいんですが、対医業収益運営費負担金比率ですが、これは妥当な値はあるのでしょうか。例えば、他の公立病院とか、何かベンチマークされているところとの比較とか、参考としてわかるとありがたいなと思います。

(長野市民病院)

総務省の繰出基準というのがありまして、それに沿った適切な運営費負担金をいただいていると考えております。その上で決まった運営費負担金をいただきながら、医業収益が増えると、この比率が減っていくので、これが減っていくということは、経営的に良いことと考えております。

(田中委員)

ありがとうございます。

(奥山委員長)

よろしいでしょうか。それでは、自己評価は5ですが、委員会の評価も5でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

ありがとうございます。ちょっと時間を過ぎてしまいましたが、残り2項目なので、続けさせていただきますが、先生方、結構でしょうか。

(委員一同 了承)

ありがとうございます。続きまして、大項目の第4「その他の業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置」の中項目「施設設備等に関する事項」について、ご説明をお願いいたします。

(長野市民病院)

大項目第4 中項目1「施設設備等に関する事項」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。委員の先生方、この施設設備等に関する事項に関していかがでしょうか。

私から質問ですが、光熱費が増加しているという記載が65ページにあります。前年に比べて、大体で結構ですが、どれぐらいでしょうか。数千万円程度で収まっていますか。

(長野市民病院)

水道光熱費は、前年比で1億1,500万円増加しています。

(奥山委員長)

致し方ないところではあると思いますが、節電などの取組もされているのでしょうか。

(長野市民病院)

院内でも節電に努めましょうというような掲示をしています。また、施設管理課でも空調の管理をして、節電を行っていますが、単価の上昇がかなり激しいため、それでは全く追いつかず増加しています。

(奥山委員長)

委員の先生方からご質問やご意見は結構でしょうか。

それでは、自己評価は4ですが、評価委員会としても4でよろしいでしょうか。

(委員一同 了承)

ありがとうございます。それでは、最後の項目になりますが、大項目の8「その他の設立団体の規則に定める業務運営に関する事項」の中項目、「施設及び設備に関する計画」についてご説明をお願いします。

(長野市民病院)

大項目第8 中項目1「施設及び設備に関する計画」について説明

(奥山委員長)

ありがとうございます。最初の報告事項の1にもありました財務諸表等にも関係しているところではありますが、最後の中項目になっております。今のご説明では計画どおりということですが、委員の先生

方からいかがでしょうか。

(田中委員)

最初の財務諸表の報告の中で資金の話をさせていただきましたが、68 ページに、「余裕資金については適切に運用を図る」と書いてありますが、余裕資金という言い方ではなくて、やっぱり将来の投資のために留保した資金という理解だと思います。このままだとお金が余っているようなことになりますので、ここの表現は見直していただいた方がいいかなと感じます。

(長野市民病院)

ありがとうございます。検討して修正させていただきます。

(伊藤委員)

評価 4 でよろしいかと思います。

(奥山委員長)

川合先生、4 でよろしいですか。

(川合委員)

はい。

(奥山委員長)

他の先生方も 4 でよろしいですか。

(委員一同 了承)

それでは、最後の項目につきましても、委員会の評価は 4 と判断させていただきたいと思います。

以上で一通り審議が終わりました。本日の結果を踏まえて、事務局の方でまとめていただきまして、次回の評価委員会で確認して、意見書案について審議したいと思いますのでよろしくお願いします。

全体を通じまして、委員の先生方から何かございますか。

(委員からの意見なし)

それでは以上をもちまして、本日の議事はすべて終了とさせていただければと思います。ちょっと時間が超過してしましまして誠に申し訳ございませんでした。委員の先生方からは大変貴重なご意見をいただきました。どうもありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

奥山委員長どうもありがとうございました。次第の 5、その他といたしまして、事務局から今後の予

定につきましてご説明を申し上げます。

次回の第3回評価委員会は、10月20日金曜日を予定しております。本日のご意見等を整理させていただきまして、次回の評価委員会で意見書案ということでご審議をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の議事録を事務局で作成しまして、電子メール等で皆様にお送りさせていただき、ご確認をいただいた上で、また次回、ご承認をいただくという流れで進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和5年度第2回地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を閉会いたします。長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

○ 閉 会 午後4時12分